

いじめを未然に防ぐための 保護者と学校の連携について

－広島市PTAアンケートからの提言－

上越教育大学大学院
高橋知己
tomomi@juen.ac.jp

1

自己紹介

上越教育大学大学院学校教育研究科道徳・生徒指導領域 教授
(兼職) 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 教授
上越教育大学いじめ・生徒指導研究センター長 (2020年9月1日発足)
上越市いじめ防止対策等専門委員会委員長
新潟県いじめ防止対策等に関する委員会 (第三者調査委員会) 委員
日本学校心理士会新潟支部支部長
2021年日本生徒指導学会上越大会実行委員長
専門: 学校心理学, 教育心理学, 生徒指導論, 特別活動論, 学級経営論

BPプロジェクト

(宮城教育大学, 上越教育大学, 鳴門教育大学, 福岡教育大学が, 連携して行っている
Bullying-Prevention (いじめ防止) プロジェクト) メンバー



BPプロジェクトの構成大学は, それぞれの特徴を生かしながら, いじめ防止に向けた取り組みを行っています。その一環として2017年6月22日 (木) に行われた, 4大学合同の授業研究会の様子です。履修者数約250名, 階段教室でアクティブラーニングの形態で行った授業です。

2

アンケート調査・文献調査を活用した研究の推進

○アンケート結果の分析

○第三者委員会報告書の分析

○アンケートの開発

●県・市の教員育成指標に基づく研修計画についての再検討

等

上越教育大学 いじめ・生徒指導研究センター

Research center for Bullying・Prevention, Guidance and Counseling

いじめ・生徒指導研究センターは、教育機関、学校及び地域社会と連携しながら、いじめや生徒指導等の学校教育の実践に関する諸課題に係る理論的・開発的研究を推進し、学校教育の改善、充実及び発展に寄与することを目的として、令和2年9月1日に設置しました。

いじめ・生徒指導研究センター長 高橋 知己

◆事業内容

本センターは、現代の社会的な状況を背景にしたいじめ・生徒指導に関する理論的、実践的な研究を行うとともに、教員研修などの支援事業を主に実施することとしています。

いじめ・生徒指導に関する教育研究の推進

学校におけるいじめの実態把握、児童生徒に対するアセスメント等の実証的研究を中心に、これまでの事業や生徒指導に関する条件を整え、検討しながら、いじめの早期発見や予防対策に有用な教育研究を推進する。

地域貢献の推進

教育関係者を対象にした研修会等において、講師等を派遣して研究成果などの情報提供や研修支援を行いながら、社会的な貢献に努める。

外資資金獲得の推進

機関や個人からの寄付金、助成金等の獲得に努める。

◆所属教員（大学院学校教育研究科）

現代教育課題研究コース（道徳・生徒指導領域）
教授 高橋 知己（たかはし ともみ）
専門分野 特別活動、学校心理学
E-mail tomomi@juen.ac.jp

現代教育課題研究コース（発達と教育連携領域）
准教授 辻村 貴洋（つじむら たかひろ）
専門分野 教育制度、地方教育行政
E-mail tsujimura@juen.ac.jp

現代教育課題研究コース（発達と教育連携領域）
准教授 蜂須賀 洋一（はちすが よういち）
専門分野 生徒指導、人権教育
E-mail yoyichi@juen.ac.jp

◆研修会等への講師派遣依頼の申込み方法について

研修会等の講師の派遣依頼については、派遣を希望する上記所属教員へ事前にメールによりお問い合わせの上、本学ホームページの「本学教職員への業務依頼」ページの「お問い合わせ」の項目よりお問い合わせください。

URL: <https://www.juen.ac.jp/050about/030a-de-job/about.html>
（ホーム＞大学紹介＞業務依頼＞本学教職員への業務依頼）

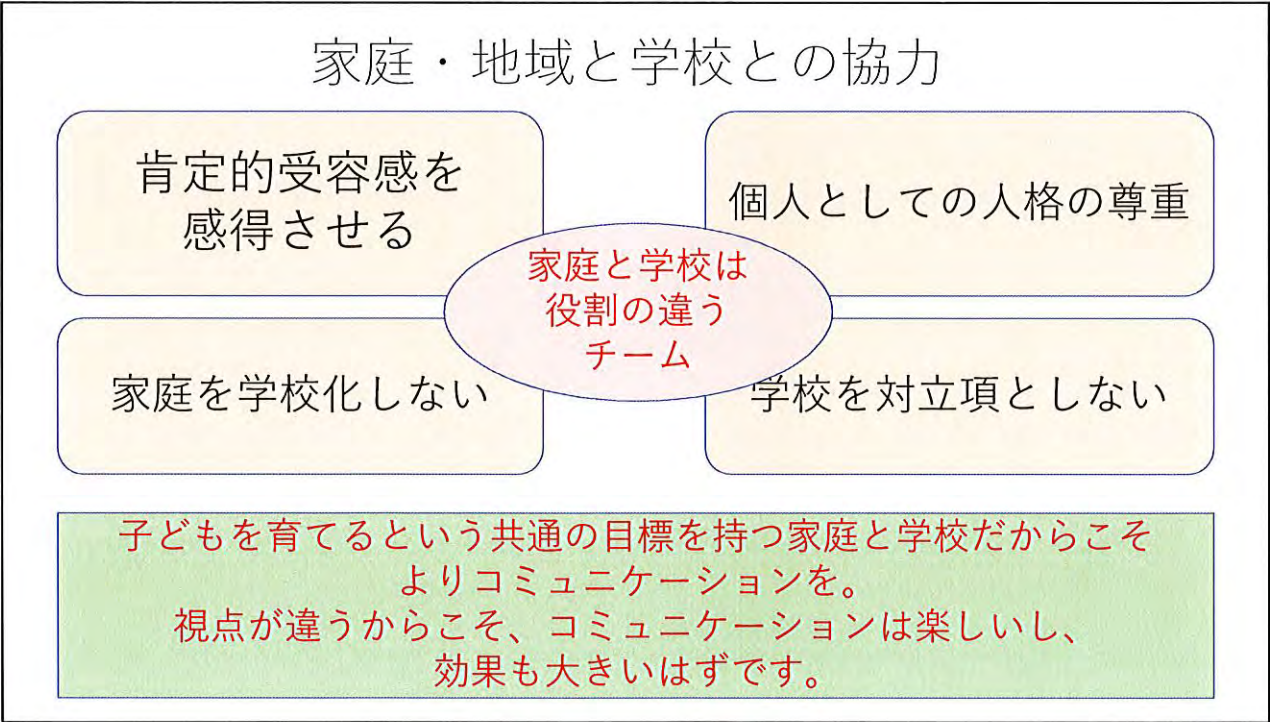
※研修会等終了後の「講師派遣実施報告書」の提出について
研修会等が終了しましたら速やかに、本学に「講師派遣実施報告書」を提出願います。
報告書の様式は、いじめ・生徒指導研究センターホームページよりダウンロードしてください。

【担当】 国立大学法人上越教育大学いじめ・生徒指導研究センター（事務：研究連携推進チーム）
〒943-8512 上越市山屋敷町1番地 E-mail: jrtgc@juen.ac.jp FAX: 025-521-3621

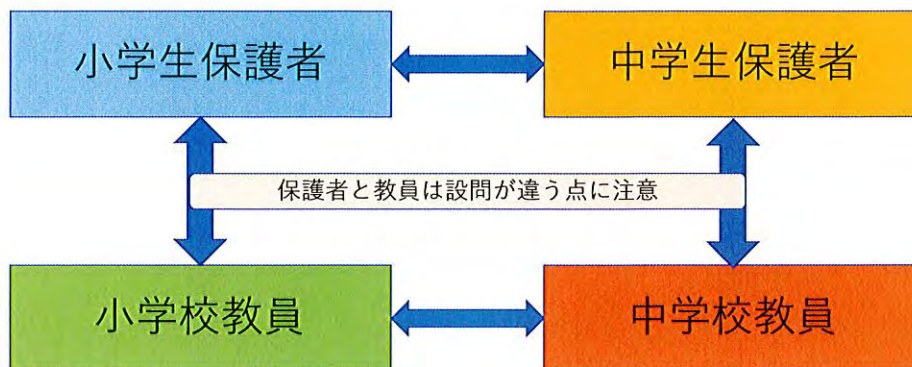
いじめ防止プロジェクト（BPプロジェクト）とは、今日の生徒指導と密接な関係にあるいじめ問題への予防・対応について、専門教育大学が連携して取り組んでいる学際的な研究プロジェクトです。
本学では、道徳・生徒指導専攻及び発達と教育連携専攻の両方の教員が中心となりこの活動に参加しています。

いじめ・生徒指導研究センターの設置、機能の強化は、本学が社会に貢献することです。

上越市PTA連合会、各地の都道府県・区市町村PTA及び政令市PTA協議会との協働



アンケートの構造（自由記述）



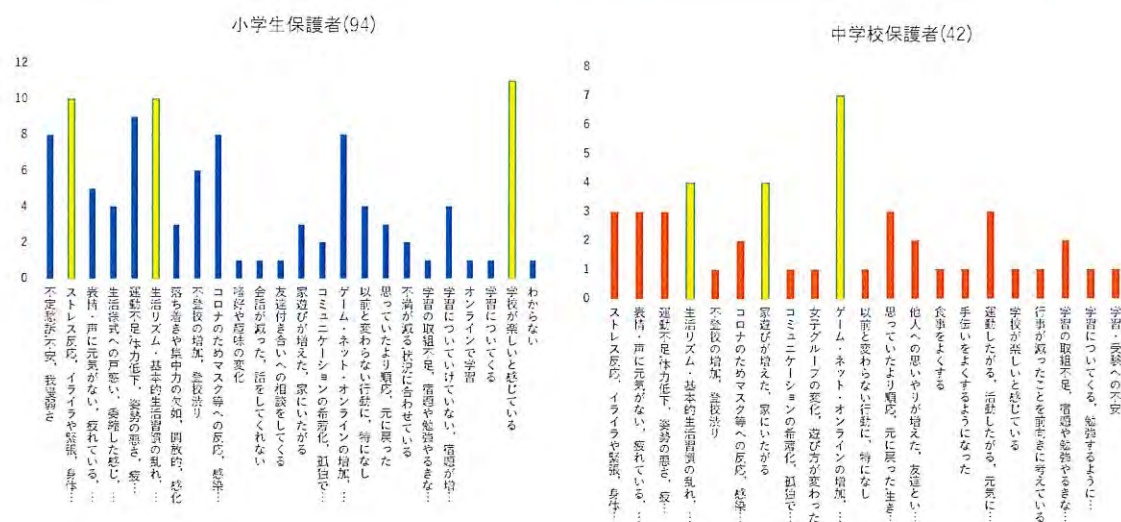
注：質的（自由記述）データの分析であり、実数についての演算（例：2倍であるとか半分だとか）はなじまないが、大小比較は可能。

5

小学生保護者
と
中学生保護者

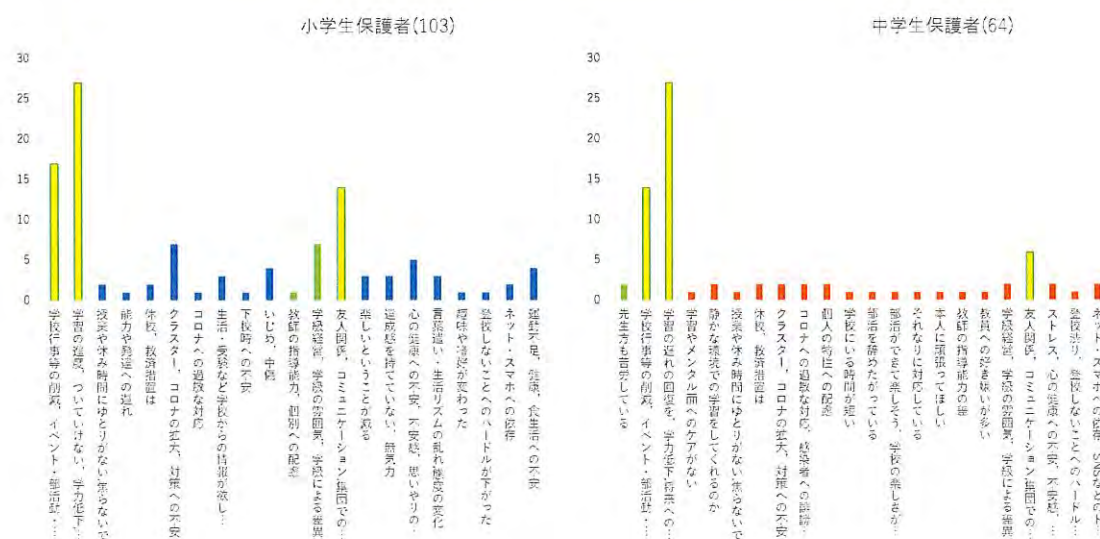
6

①学校の臨時休業が明けて、児童と過ごして感じた違和感があれば教えてください



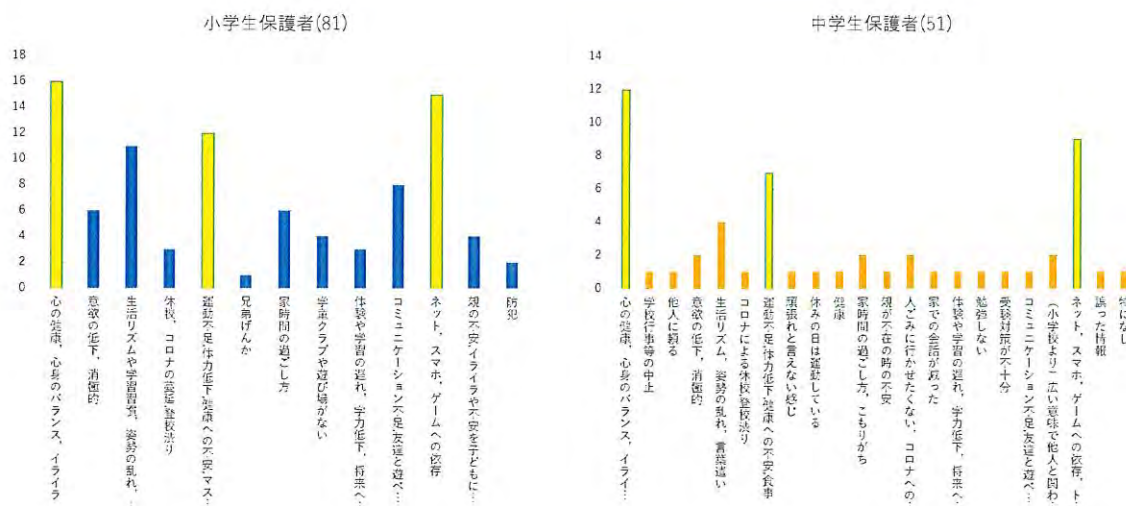
7

②子どもの学校生活について不安に思うことを教えてください



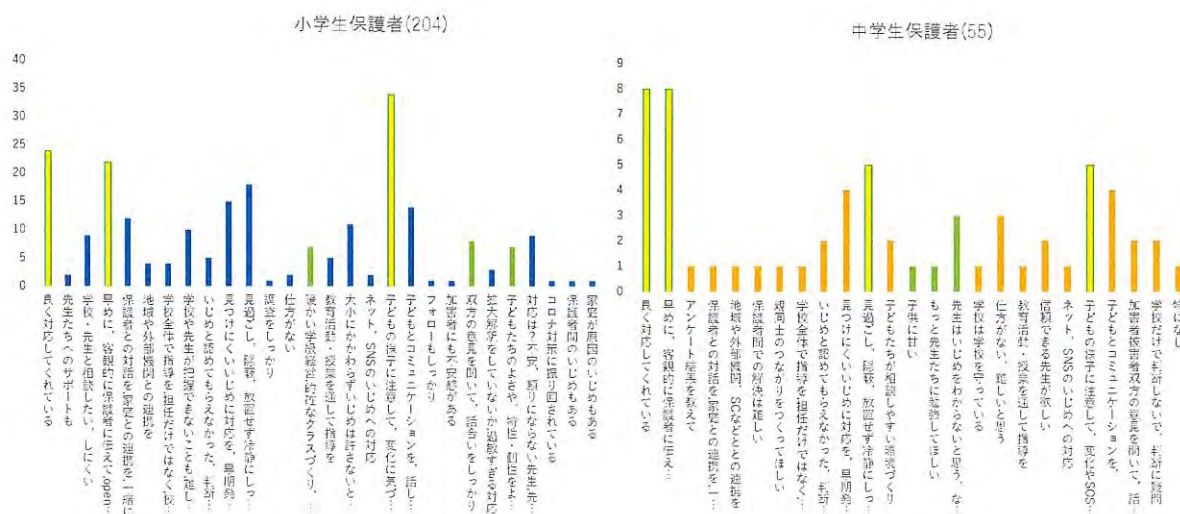
8

③子どもの家庭での生活について不安に思うことを教えてください

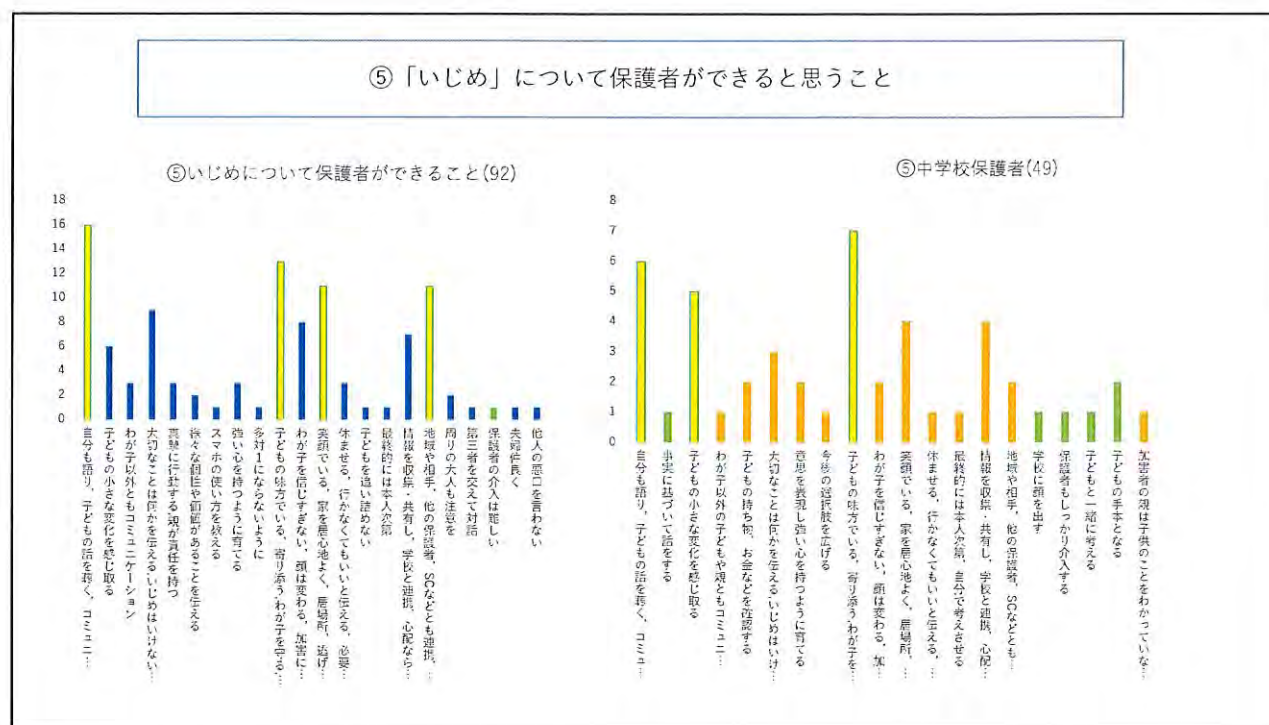


9

④「いじめ」について学校に思うこと



10



11

小学生保護者と中学生保護者

- 基本的な反応は似た傾向を示す
- 小中保護者共に、早期の連絡を求めている。より学校と連携したいという希望がある。
- 小学生保護者は、学校・教師に対して厳しい視線であり、子どもをよく見てほしいという要求が中学生保護者より強い。特に学級経営に対する不満や不安がある。
- 中学生保護者は、自分たちで何とかしようとする意識が強い。いじめに関しては、教員にもっと取組んでほしい、学習してほしいと考えている。
- 中学生保護者の方が、一歩引いた対応を考えている。小学校保護者は、より直接的に子どもを守ろうという意識が強い。

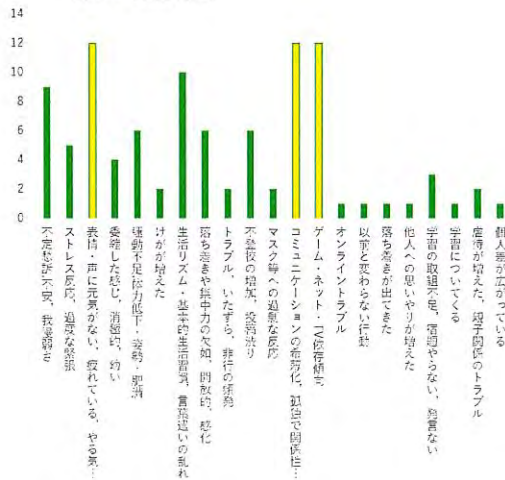
12

小学校教員 と 中学校教員

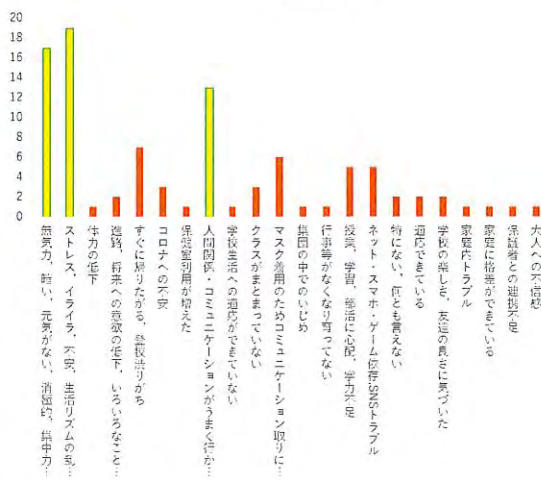
13

①学校の臨時休業が明けて、生徒と過ごして感じた違和感があれば教えてください

①小学校教員(91)



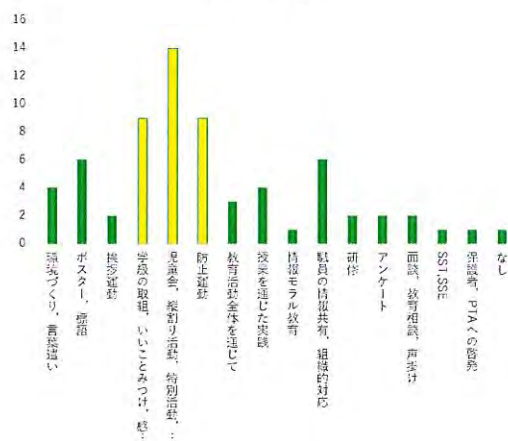
①中学校教員(71)



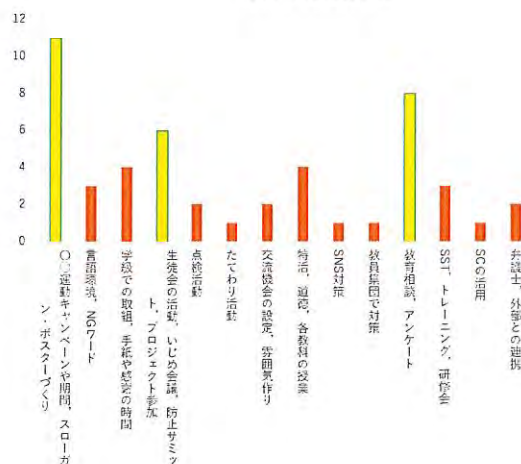
14

②当校で行っている生徒会主体のいじめ対策があれば教えてください

②小学校教員(63)



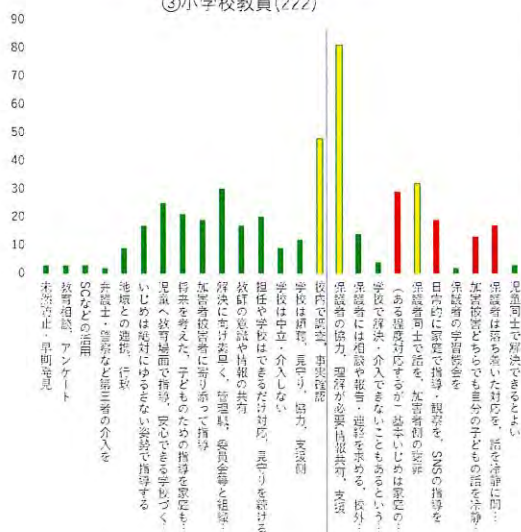
②中学校教員(45)



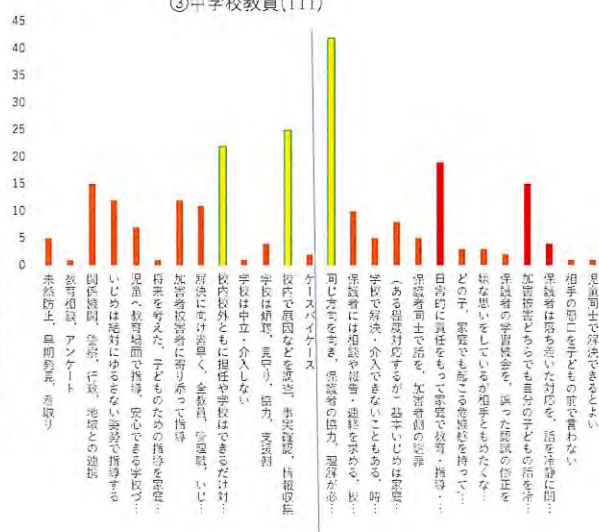
15

③学校外で起こったいじめに対しての、学校のスタンスと、求める保護者の在り方（理想）を簡単に教えてください

③小学校教員(222)



③中学校教員(111)



16

小学校教員と中学校教員

- 共通項が多い。家庭に協力と連携を求め、冷静な対応をお願いしている。
- どちらかという小学校教員の方が、いじめは基本的に家庭で指導を、という意識がある。
- 中学校では、教育相談やアンケートによる早期発見に取り組んでいる。
- 小中学校ともに集団での活動、児童会生徒会活動や特別活動によるいじめ対策に重点を置いている。

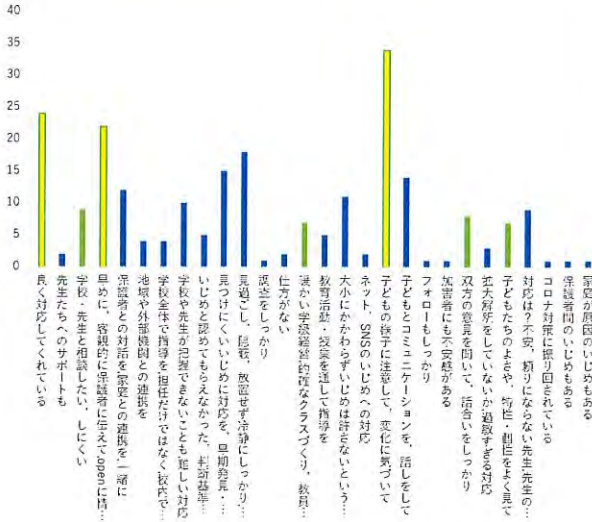
17

小学生保護者
と
小学校教員

18

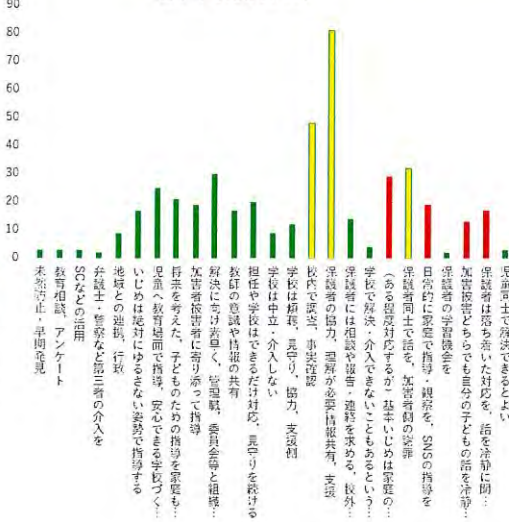
④いじめについて学校に思うこと

④小学生保護者(204)



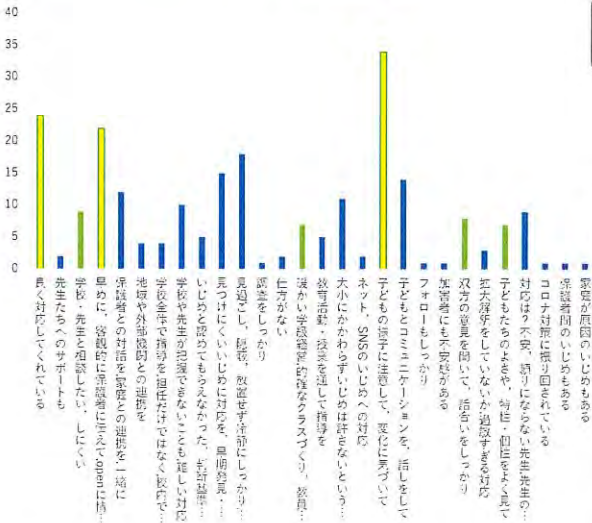
③学校外で起こったいじめに対しての、学校のスタンスと、求める保護者の在り方(理想)を簡単に教えてください

③小学校教員(222)



④いじめについて学校に思うこと

④小学生保護者(204)



子どもの様子をもっと
しっかり見てほしい

子どもたちとのコミュニ
ケーションが不安

早めに保護者に連絡して
ほしい

見過ごしたり放置せず
しっかりと対応を

家庭との連携を

早期発見にきちんと
取り組んで

いじめは許さないという
毅然とした態度

子どもたちの良さや個性
を見てほしい

学校・先生に相談したい
が、しにくい

対応が難しいのはわかる

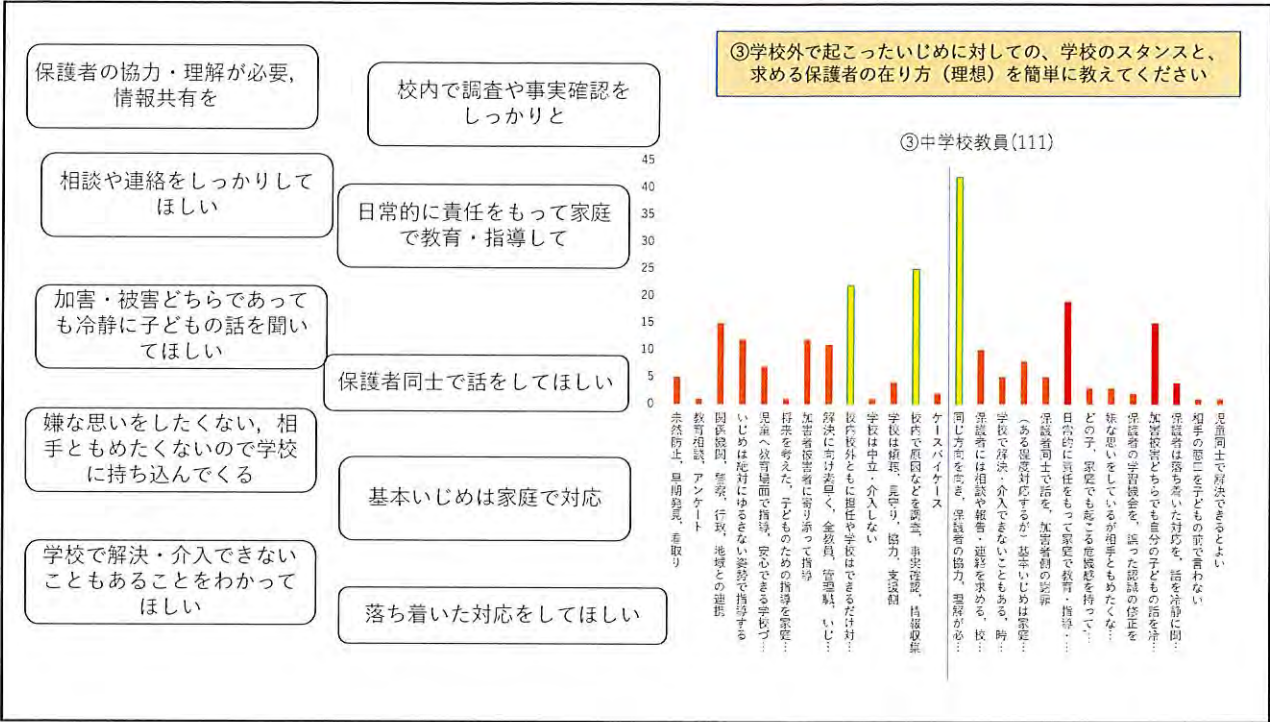
頼りにならない先生
対応が不安

しっかり学級経営をして
ほしい

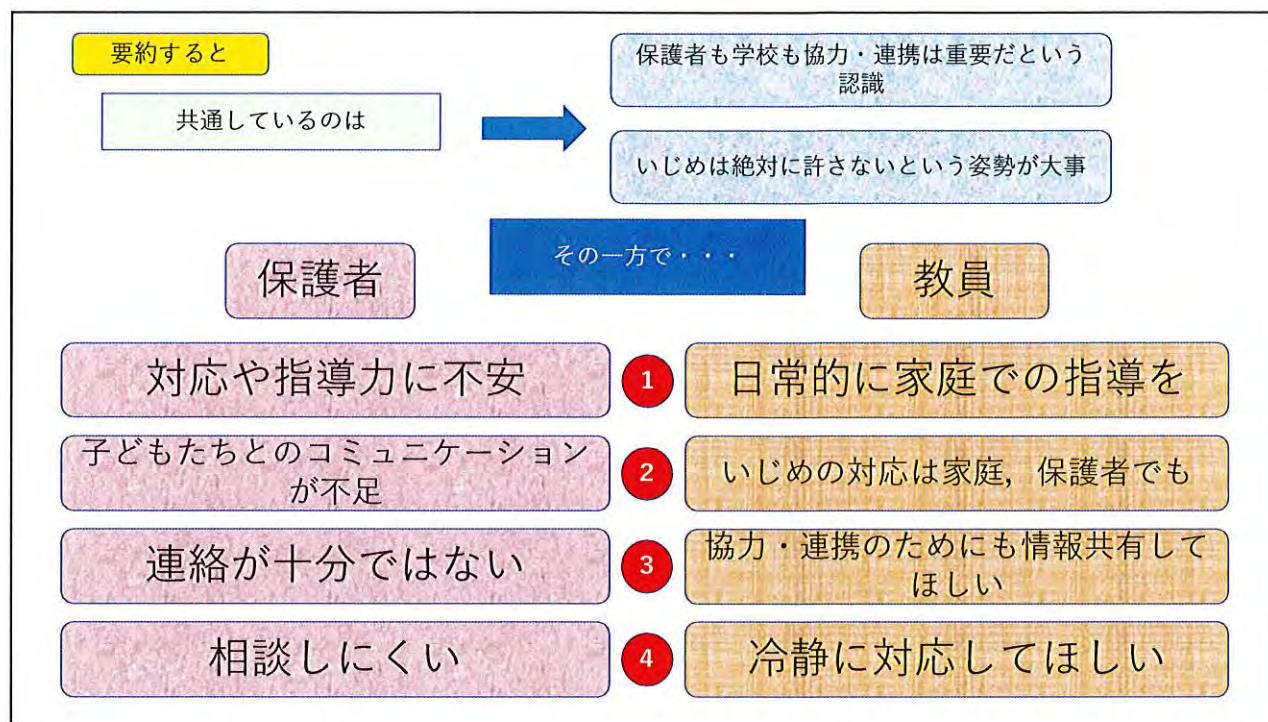


11

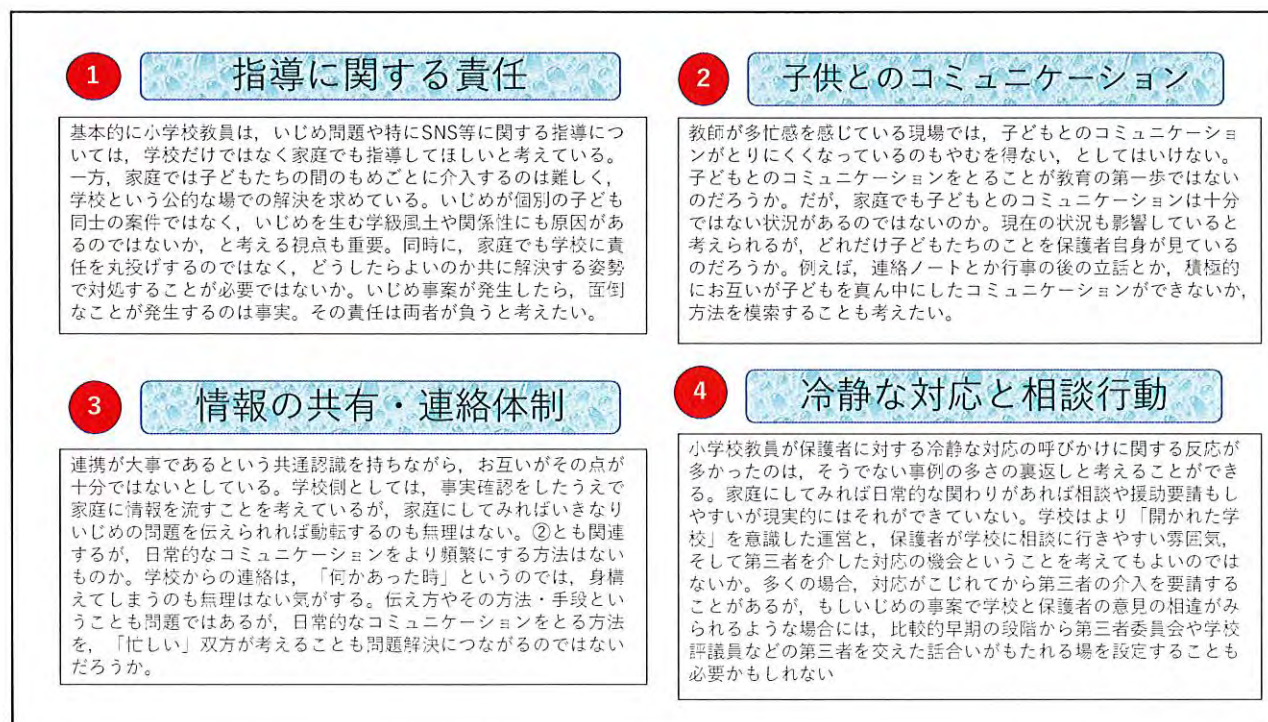




保護者と教員のアンケートからわかること
と
提言に代えて



27



28

これからのいじめ対応のポイント
皆さんも考えてみませんか？

- PとTのコミュニケーションの機会を設定する
- 子どもを真ん中において活動を
- 新しい学校の様式を提案できるかも（の期待）
- 定期的なアンケートによる意識調査の継続とそれをベースにした相互理解の伸長
- 保護者と学校が相互乗り入れ的に責任を持とうとする意識の変容